



教職員支援グループ（研究・研修）より

8月2日（水）に、夏季研修講座「これから講座①（生徒指導）」を実施しました。「これから講座」設置の趣旨を踏まえて、今年度は、「学校、教員をとりまく現状」「いじめ』『生徒指導』『絆づくり・居場所づくり』とは」等、生徒指導の基礎的内容について講話を聴いた後、「事例への具体的な対応を考える演習」を行いました。本紙では、演習で取り上げた一事例（対応が不適切なために長期化）をもとに、「生徒指導のポイント」を紹介します。

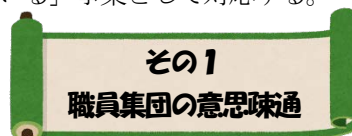
1. 問題の発生

9月20日、午後4時、小6 A女の母親から、生徒指導主事に電話が入った。「娘が、下校中に、同じ学級のB君、C君から足を蹴られた。この2人は、前から、娘をいじめている。7月にも、下校中に、近寄るなどと言われて叩かれたことがあった。今も、教室の机を近づけるなど言われている。何とかして欲しいと担任に相談したが、全然解決しない。特にB君が酷いが、最近では、他の子ども娘を避けているようだ。娘は、学校に行きたくないと言っている。きちんと指導して欲しい」との内容だった。生徒指導主事は、「申し訳ありません。まず、B君、C君から事情を聴いて、きちんと指導しますので、しばらく待ってください」と答えた。生徒指導主事が担任に話を聴くと、今までも、その都度2人を指導してきたが、教師の見えないところでいじめているようで、全てを把握できないでいるとのことだった。そこで、生徒指導主事は、担任に、すぐに、B男、C男から事情を聴くように指示した。

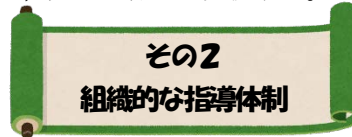
2. 指導の概要

- ①担任は、すぐに、B男、C男宅に電話をして、それぞれから事情を聴いた。
 - ②B男は、「わざとではなく、足を上げたら、Aさんに当たってしまった」と言い、C男は、「B君と一緒にいたけれど、僕は、蹴っていない」と言った。B男には、明日、学校で、A女にきちんと謝ることを約束させた。
 - ③担任は、B男、C男から聴いたことを、生徒指導主事に話した後、午後6時、A女宅に電話をして、放課後の出来事の概要と、A女への謝罪の場を、明日設定することを、母親に話した。
 - ④翌21日の朝の会終了後、担任が、A女とB男を別室に呼んで、A女への謝罪の指導を、B男に対して行った。
 - ⑤同日午後6時、担任が、A女宅を訪問して、謝罪の指導内容と今後の対応について、母親に説明した。
- ※この対応により、いじめは陰湿化し、A女の母親もB女の母親も、学校に不信感を抱く事態となった。

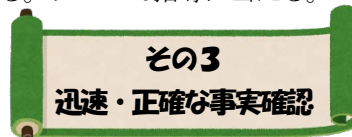
「いじめの問題が長期にわたって続いている」事案として対応する。



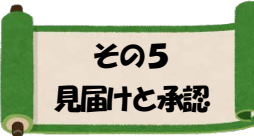
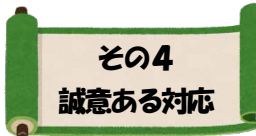
担任が、問題を抱え込んでいる。日頃から相談しやすい雰囲気をつくる。担任不在の場では、お互いに注意して見合い、児童の様子を交流する。



指導が、担任任せになっている。生徒指導主事が中心となり、管理職の助言を受けながら、指導の方向を明らかにする。チームで指導に当たる。



事実確認が不十分のまま、聞き取りをしたり、報告をしたりしている。A女に直接話を聴き、つらい気持ちや願いを受け止める。A女の気持ちに立てる学級の児童にも聞き取りを行う。



電話対応で済ませている。B男の内省が無いまま、謝罪の指導を進めている。すぐに、A女宅を訪問し、対応が遅れたことを謝罪する。B男、C男共、内省の上で、謝罪の形を自己決定させる。

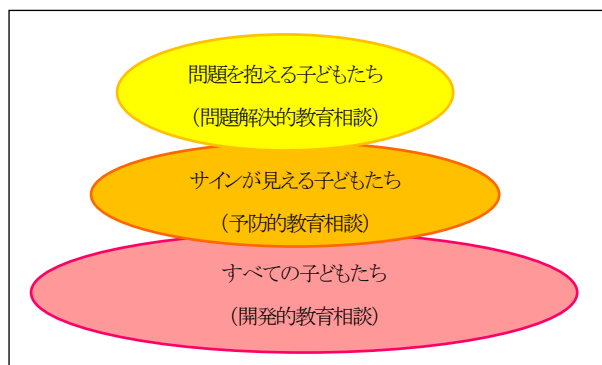
あなただったら、更に、どう指導するかな？

教育相談とは…

先日、ある若手教員に「教育相談とは？」と尋ねてみると… 「子どもたちに『悩みや不安はない？』と尋ねたり、いじめや不登校の解決をするために相談したりすること」という回答をいただきました。

文部科学省の「生徒指導提要」では、教育相談について、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません。」とあります。また、教育相談の進め方について、①問題を解決する（問題解決的・治療的）教育相談 ②問題を未然に防ぐ（予防的）教育相談 ③育てる（発達促進的・開発的）教育相談 が取り上げられています。

③は、課題に直面した時にどのように解決していくのかという問題解決の力を育てることや、個々の人としての良さをさらに伸ばし、自己実現へつなげることも教育相談としてとらえられています。



つまり、社会的なスキルやコミュニケーション能力等を向上させ、自分の思いを適切に相手に伝えたり、相手の話を聴いたりする力を育てることも教育相談における重要な活動ということです。

友人関係がうまくいかない時に、無視したり、暴言や暴力によって相手を傷つけたりすることなく問題解決ができれば、仲間外れやいじめなどの問題に発展することを未然に防ぐことができます。また、怒りや嫌悪などの感情を適切な方法で解消することも学校生活への適応のために必要な力です。

こうした力を育てる活動は、すでに多くの学校で、道徳や特別活動などにおいて重点的に取り組まれ、さらに学校生活のすべての学びの中で、時と場に応じて取り入れられていることと思いますが、以下に具体的な取組を紹介します。

《教育総合研究所にかかわる9・10月の行事》

9月 8日(金)	ほほえみ教室 始業式	10月 5日(木)	第2回少年支援員研修会
28日(木)	教育相談研修会	16日(月)	第2回教育研究会部長会
10月 3日(火)	人権・同和教育幹部隔年研修会	31日(火)	第3回教科別研究会(小中合同)

☆自分の見方を変えるリフレーミングワーク

○ペアをつくり、日頃から自分の短所・欠点だと感じていることを相手の人から長所に変えてもらう。

- ①自分が欠点だと思っていることを書き、相手に渡す。
- ②相手が書いた欠点について、「見方を変えれば…(リフレーミング)○○という長所だ」と書く。
- ③リフレーミングした結果を相手から伝えてもらう。

*リフレーミングの例

- ・怒りっぽい→情熱的な
- ・頑固な→意志が強い
- ・しつこい→粘り強い
- ・消極的な→控えめな
- ・だらしない→こだわりがない、おおらかな
- ・飽きっぽい→好奇心旺盛な、興味が広い

- ・自分の短所を語ることに抵抗がある子には配慮する。
- ・からかいやふざけることは絶対しないよう徹底する。

☆気持ちものさし

○ペアをつくり、自分の気持ちの状態について相手に話す。

- ①自分の今の気持ちに10点満点で点数をつける。
- ②ジャンケンをして「A」・「B」を決める。
- ③互いに気持ちの点数の理由について質問し合う。
- ④友達の気持ちに配慮した行動をすることを確認する。

*質問の例

- ・A:「Bさん、あなたの今の気持ちを数字で表すと何点ですか？」
- ・B:「7点です。」
- ・A:「なぜ7点なのですか？」
- ・B:「今朝、近所のおじさんが『おはよう。気をつけてね』と声をかけてくれて、とてもよい気持ちでしたからです。Aさんは？」
- ・A:「2点です。宿題をやったのに、忘れてきたから…」
- ・B:「それは残念でしたね。どうしたらよいと思いますか？」
- ・A:「先生に正直に話そうと思います。」
- ・B:「そうだね。それがよいと思います。」

- ・帰りの会でも同じ活動を行い、自分や友達の気持ちの変化に気付かせ、配慮の気持ちを示せるよう促す。

参考文献

- 文部科学省「生徒指導提要」
- 桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著「教育相談ワークブック ～子どもを育む人になるために～」(北樹出版)
- 岡田倫代 著「ピア・サポート力がつく コミュニケーションワークブック」(学事出版)